

鍛冶町 荒町 鐵砲町 田原町 弓町 金子
木呂場 市佐坊 菅生町 永町 敷地町 稗
田町

附近大聖寺地方及び山田町地方も亦明治中大
聖寺に編入せられ、而して山田町地方は更に
南町と改められた。

ダイシヨウジ 大聖寺 江沼郡に在つた寺
院。もと平安朝時代の白山五院の一つで、今
の錦城山に在り、三光山大聖寺と號したが、
後に廢した。下つて應永中根來寺の僧睿憲、
越前三國に瀧谷寺を建て、幾くもなく大聖寺
町に來り、町より橋に通ずる道路と吉崎に向
かふ道路との中間丘上に一字を建て、新瀧谷
山大聖寺と號したが、天文中兵火に罹つて紺
屋町(後の寺町)に伽藍を再興した。五代覺憲
の時前田利治こゝに入部し、寺地を石堂山麓
に賜ふに及び、慈光院と改稱し、神佛を混じて
壽神明といはれたが、明治の後山下神社にな
つた。白山五院の大聖寺は天台であらうと思
はれるが、慈光院は眞言であつた。

ダイシヨウジ 大正持 江沼郡大聖寺町の
ことで、大聖寺がもと寺號に起つた名である
から、之を避けて佳字を用ひたのである。又
元祿元年六月廿三日には加賀藩で今後大正持
の文字を用ひることに定めたが、この後にも
尙大聖寺・大正持混用してゐる。

ダイシヨウジ 大正寺 大聖寺の町名を民
間では大正寺と書いたものが多い。大正寺の
文字は、慶長五年八月廿四日家康が前田利長
に興へた消息にも見える。

ダイシヨウジ 大勝寺 前田利長が慶長五
年八月三日高島石見守に興へた感狀に、『今月
三日に大勝寺之城へ取懸、即時に攻入云々』

とある。大聖寺を大勝寺と書いたのは、一時
の祝言であらう。

ダイシヨウジ 大勝持 江沼郡大聖寺町本
善寺の鐘銘は、寛永十八年とあるもので、そ
れには大聖寺町を大勝持と書いてある。

ダイシヨウジ 大乘寺 (一)沿革 初め石
川郡野々市に在つて、弘長元年富樫家尙の之
を建て、密宗の僧澄海阿闍梨をして住せしめ
た所。然るに澄海は嘗て永平寺の徹通義介に
就いて禪要を問うた關係により、家尙と謀つ
て當時永平寺を退隱しその山内に住してゐた
徹通に寺産を譲らんと欲し、正應二年之を屈
請したので、徹通は遂に之に臨み、改めて禪
院とした。曹洞の法種加賀に播かれること實
に之を初とし、而して大乘寺が曹洞第二の本
山と自負する所以も亦こゝに存する。大乘寺
は徹通義介の後、瑩山紹瑾を経て、臨濟の恭
應運良一時之に住したが、その去つた後、正
平元年(貞和二)地頭藤原家善は、寺田敷地を
擧げて之を永光寺二代明峰素哲に寄進住持せ
しめた。次いで足利尊氏本寺を祈願寺に當て
てから、室町將軍歴世之に歸依し、義種の時
に至るまで相次いで寺領の寄進を懈らなかつ
た。後前田利家の時に及び、十四代虎室春策
の請によりて寺を金澤木新保に移し、慶長六
年十五代謙室吞益の時又今の本多町大乘寺坂
下の地に移らしめ、元祿十年二十八代明州珠
心の時更に石川郡寺地山に轉じた。當寺は山
號を檜樹林・金獅峰又は東香山といひ、(後に
は松樹林とも書く)寺を大乘護國禪寺ともい
ふ。その塔頭定光院は延慶二年徹通の創立、
東光院は正中二年瑩山の創立、高安軒は觀應
元年明峰の創立であつたが、今は存せぬ。

(二)足利氏と大乘寺 足利氏はその祈禱を行
ふに當つて、屢之を大乘寺に命じた。正平六
年(觀應二)七月當時尊氏と不和であつた直義
は越前に脱走し、その徒越中の守護桃井直常
は、尊氏に抗する爲、出で、近江の八相山に
陣したが、九月十二日尊氏の軍は攻めて之を
走らしめた。今大乘寺にある『凶徒退治祈禱
事、特可被致精誠之件如件。觀應二年九月廿
二日在判(尊氏)。大乘寺長老。』とある文書は
かうした際のもので、この時尊氏は尙近江の
陣中に在つた。而してこゝに凶徒といふは、
宮方たる直義方たるを問はず、己に反抗す
る一切の敵を指したのである。十月尊氏京に
入り、鎌倉に赴いた直義を討たんと欲し、併
つて宮方に歸順したが、後村上天皇は假に之
を許し、七年(文和元)閏二月八幡に鸞輿を進
め、忽ち京師攻略の勢を示し給うた。こゝに
於いて宮方と武家方の闘争復起つたが、八年
(文和二)六月に至つて南軍の勢大に振ひ、尊
氏の爲に京師に留守した義詮を追うたから、
十三日義詮は後光嚴院を奉じて美濃に脱走し
た。大乘寺所藏『天下靜謐祈禱事、近日可抽
懇丹之狀如件。文和二年七月二日在判(義詮)。
大乘寺長老。』とあるものは、亦この間の事に
屬し、次いで廿五日彼は再び京師を回復した。
かくの如く大乘寺が常に足利氏の爲に丹誠を
抽んでたものは、加賀の守護富樫氏が武家方
であつた關係にもよるものであらう。

(三)三代 大乘寺の世代は、開山徹通義介、
二代瑩山紹瑾、列外恭應運良、三代明峰素哲、
列外無漏素崇、四代珠巖道珍、五代徹山旨廊、
六代桂巖永昌、七代壽山了運、八代義山等仁、
九代紹嶽堅隆、十代幾年豐隆、十一代提室智

剛、十二代虎溪正淳、十三代雪憲祐補、十四
代虎室春策、十五代謙室吞益、十六代格堂曹
逸、十七代雲山良晟、十八代海天玄聚、十九
代州山春昌、二十代覺室麟等、廿一代超山間
越、廿二代福州光智、廿三代明堂雄敏、廿四
代龍岩義門、廿五代白峰玄滴、廿六代月舟宗
胡、廿七代山道白、列外德翁良高、廿八代
明州珠心、廿九代密山道顯、三十代絶學了爲、
三十一代益堂雲甫、三十二代曹源滴水、三十
三代智燈照玄、三十四代大機行休、三十五代
三州白龍、三十六代雪心白癡、三十七代慈麟
玄趾、三十八代逆水洞流、三十九代一入覺
門、四十代大曉高鈞、四十一代芳充祖俊、四
十二代雲瑞禪苗、四十三代無學愚禪、四十四
代滿圭裕天、再住無學愚禪、四十五代梅嶺玉
香、四十六代如庵湛堂、四十七代周山潛龍、
四十八代佛海天龍、四十九代天巖梵童、五十
代覺海眞禪、五十一代老庵黃梅、五十二代世
濟得船、五十三代祖染勇道、五十四代鐵籃無
底、五十五代佛關惠透、五十六代沖峰嘿如、
五十七代虎關俊嘯、五十八代補準石天、五十
九代心應篤淳、六十代佛心道海を數へて明治
期に入る。

(四)寺格 大乘寺は瑩山紹瑾の師たる徹通義
介の草創なるが故に、その法嗣たる瑩山紹瑾
の淨住・永光・總持三寺よりも、當然上位に居
らざるべからずと主張した。瑩山紹瑾が永光
寺で書いた置文に、『大乘寺者先師開法之加州
第一之寶寺』とあるのはその意味に近い。
(五)國寶 當寺の國寶に支那禪利圖式があ
る。又法寶物の重要なものに一夜碧巖集が
ある。→シナゼンセツズシキ 支那禪利圖
式。ヘキガンシユウ 碧巖集。

式。ヘキガンシユウ 碧巖集。